

インターバンクの声（2017年10月3日）

スペインからの独立を目指したカタルーニャ自治州の住民投票は賛成票が大多数を占め、先行きが不透明になったことから、昨日は東京市場の朝からロンドン市場にかけてユーロ売り・ドル買いが進んだ。週末のニューヨーク市場の終値水準だった1.18ドル台前半から約100ポイント下落した1.17ドル台前半になってようやくユーロを買戻す動きも見られて30ポイント程反発したが、どうもユーロの上値は重くなったようだ。

米金利の上昇やユーロ売り・ドル買いの影響もあって113円台に乗せたドル円だったが、ロンドン勢が参入し始める頃には米金利も低下し始め、利益確定のドル売りが並んでいたのか直ぐに112円台に戻ってしまった。

ニューヨーク市場では、序盤に発表された9月のISM製造業景況指数が予想外に上昇したため一時的にドルが急上昇したが長くは持たず、ニュースもラスベガスでの銃乱射事件を放送し続け、その後は各通貨とも動きが鈍くなった。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。